細谷圭先生（東北学院大学）の講義資料（7.1）から

経済成長のハロッド=ドーマー・モデル

$K/Y = v$ を資本係数と呼ぶ。

v とは、生産量 1 単位のために必要な資本ストック（資本設備）の量

$$\Delta K / \Delta Y = v \quad \dots\dots(7-1) \quad (*)$$

生産量 1 単位の増加分のために必要な資本ストック（資本設備）の増加分も v 。

$$\Delta K = K_1 - K_0 = I_0$$

～ 次期の資本設備増加分 ΔK は、今期の実物投資量 I_0 である。

よって 式 (*) により、

$$\Delta K / \Delta Y = I / \Delta Y = v \quad \dots\dots(7-3)$$

よって $I = v \cdot \Delta Y$

$$I / Y = v \cdot \Delta Y / Y \quad \text{ここで } \Delta Y / Y = G \text{ (経済成長率) とすると、}$$

$$I / Y = v \cdot G \quad \dots\dots(7-5) \quad (**)$$

$$Y = C + S \quad \sim \text{生産量} \equiv \text{所得量} \text{ は消費量と貯蓄量に分かれる。}$$

$$Y / Y = C / Y + S / Y$$

$$C / Y \text{ (消費性向)} = c', S / Y \text{ (貯蓄性向)} = s' \text{ とすると、}$$

$$1 = c' + s' \quad \text{ここで } 0 \leq c' \leq 1 \text{ かつ } 0 \leq s' \leq 1$$

(今期の)貯蓄量と(次期の)実物投資が等しい ($S = I$) とき、式(**)により、

$$I / Y = S / Y = s' = v \cdot G$$

よって $G = s' / v$

含意： G (生産量=国民所得の成長率) は、

貯蓄性向が高いほど、資本ストックの増加分が小さいほど、高い。

End